

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770500361		
法人名	医療法人社団 慈泉会		
事業所名	グループホーム ひもろぎの園(1階ユニット)		
所在地	福島県白河市関辺川前88		
自己評価作成日	平成23年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/infomationPublic.do?JCD=0770500361&amp;SCD=320">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/infomationPublic.do?JCD=0770500361&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会
所在地	福島県郡山市亀田二丁目19-14 チャレンジビル2階
訪問調査日	平成24年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の個性を尊重しながら、自分らしく生活を送ることができるよう、職員一人一人が心掛け日々の支援に努めている。具体的には、毎日の申し送りや定期的にユニット内で入居者それぞれについて職員間での話し合いを持ち、適切に入居者への必要な支援を行うことができるように取り組んでいる。また、ホームに入居されてもご家族とのこれまでの関係が保たれるように、毎月、職員が近況報告としてご家族へ手紙を書いたり、病院受診や何か特別な出来事があった場合には、必ず電話などを用いて入居者の様子や状況をご家族に伝えるよう配慮している。それによって、ご家族がホームに来られた際にも和やかに入居者とお話しすることができ、また、遠方に住んでおられる場合でも入居者の様子を常に把握しておいて頂く事が可能である。ご家族がホームにおいてになった場合には、職員よりさらに

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白河市南湖公園近くにあり介護老人保健施設と隣接した2階建て2ユニットの事業所である。1階2階ともリビングの大きな窓からは木々や畑が見渡せ、また中庭のケヤキの木など季節感を感じる事が出来る。入居者がピアノを弾き、割烹着を身に付けて食事の用意をしたり、来客時に入居者がお茶を運んでくれたり、など入居者の個性を尊重したケアの実践に取り組んでいる事業所である。管理者と職員間の風通しがよく職員それぞれの意向やアイデアが尊重されている。入居者の暮らし方や職員のあり方など理念がしっかりと共有され、入居者が生き生きとした表情で過ごしており、事業所内がとても暖かい雰囲気、ご家族の評価も高い。各種ミーティングでも入居者個々の話題が多く出され職員主導ではなく入居者を主体とした支援が行われていることを強く感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業者である事を念頭に、職員同士で話し合いホームの理念を作っている。また、日頃の生活の中でも、理念に沿ったサービス提供ができるよう、常に職員間で話し合いを持ちながら入居者の生活支援に努めている。	理念は、設立時の職員同士で話し合いをして作成した。新規職員には、OJTで理念を伝えるほか、ミーティングを通じて理念について話し合いの場を設けている。入居者やご家族にも入居時に理念を伝え実践しているか確認してもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で行う行事(花火大会、秋祭り等)では、地域の方々に自由に参加して頂いている。また、定期的に広報紙「ひもろぎ通信」を発行しホームへの理解を深めて頂くと同時に、夏祭り等の地域行事にも参加させて頂いている。	地域の方に事業所で行う行事(花火大会・防災訓練等)に参加してもらい、事業所からも地域の行事に参加して、付き合いを深めている。また、地域回覧板に「ひもろぎ通信」を入れて地域の方に、事業所の理解を深めてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の運動会、夏祭り等に入居者と一緒に参加したり、施設防災訓練に地域の方々に出席して頂く事により、ホームで暮らす入居者を知って頂く機会を設けている。広報紙の発行により認知症等への理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市担当課長、地域包括センター職員、地域代表者、家族会代表者に委員となっており、定期的に会議を開催している。会議では、入居者の状況やホームでの行事を写真等で具体的に紹介し、各委員に意見を求めている。	運営推進会議で、事業所の行事報告や日々の状況を写真等で紹介している。防災訓練については参加を「依頼」するのではなく、参加方法を一緒に検討して頂き委員の意向を反映した取り組みになるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員として、担当課長に毎回会議に参加して頂いている。また、地震や豪雨等の災害時には担当課と連絡を取りあったり、市担当課の要請に協力する(被災者受入れ)等、相互に協力できる関係作りを行っている。	運営推進会議委員長が市担当課長であり、毎回会議に出席している。災害時、被災者の受け入れについて市からの依頼と事業所の状況等、連絡を取り合って協力し対応した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する介護老人保健施設と協力して勉強会を開催したり、ホーム内でも職員間で勉強会を催す等して、身体拘束とは何かを職員それぞれに考えながら、身体拘束をしない取り組みを行っている。また、ホームへの出入りについても、見守りにより日中は自由に行える。	法人全体で講師を呼んでの研修会や事業所内の勉強会を定期的に行い、職員の共有認識を図り、常に拘束しないで解決できる方法を探り、行っている。回数、時間にかかわらず外出したい時は、職員が落ち着くまで同行し制限せず自由に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を毎年ホーム内で開催し、高齢者虐待に関する理解と知識を深める努力をしている。日頃は、全体ミーティングやカンファレンスを通して職員間で話し合い、虐待が見過ごされないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の認知症実践者研修に職員を出席させる等、関係する研修会への参加により制度への理解を深められるよう取組みを行っている。また、成年後見人制度を利用されている入居者もおり、日々の生活の中でも理解する努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、入居前、入居日等、できるだけ多く契約やその内容について、説明する機会を設けている。それにより、疑問点や不安な事がある場合の解消とホーム利用にあたっての理解を深めて頂く努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、職員と家族が相互に懇親を図り理解を深められる関係を築いている。家族会総会において、ホームの事業報告や年間の行事計画を報告し家族との意見交換を行っている。家族会提案の「ひやりはつと用紙」を設置	家族会開催の前に家族会の役員会を行い、内容を検討し決めている。緊急連絡網の作成を家族会で諮り作成した。家族会交流会も設けられ、家族間、職員と家族の理解を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催している全体ミーティングや申し送りを利用し、ホーム運営に関わる職員の意見や要望を聞く機会を設けている。法人全体に関わる問題は、管理者が参加する主任者会議で話し合いあう事により意見を反映している。	全体ミーティング、フロアミーティングや申し送りで職員からの意見・提案の機会を設けている。また、ホワイトボードを活用し新規職員の意見等出し易い工夫を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活環境を考え、雇用形態はパート職等も採用しながら柔軟に取り組んでいる。また、休日や夜勤等については、ある程度各職員の都合や希望に配慮しながら、家庭と仕事が両立できるような勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ホーム内で勉強会を開催し職員の知識の向上と技術の習得に努めている。また、グループホーム連絡協議会が開催する講習会を中心に、職員が外部講習会へ参加する機会を出来るだけ多く取れるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、県南地域グループホーム連絡協議会への総会、会議、研修会等への出席により同業者との交流や情報交換を行っている。また、ホーム職員が県南地区の研修委員を務め、同業者間での交流や全体の質の向上を目指す支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活環境を踏まえながら、ご本人が何をしたいのか、どうして欲しいのかをご本人及びご家族より伺うと共に、ご家族からの協力を得つつ不安なくホームでの生活が送れるよう職員間で情報を共有し、統一した対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人やご家族が希望している事、不安な事、将来の夢等のお話を伺い情報を収集し、それに沿った支援ができるようミーティング等を通して職員間で話し合い、ご本人、ご家族に伝え相互の信頼関係が得られるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の声を十分に聴き、職員間でカンファレンスを開き、話し合い、専門スタッフの声を取り入れる等して「その時」のケアを見極めている。必要に応じて、ケアマネージャー等がご本人やご家族へ色々な提案や説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存能力を活かし、出来る事、出来ないこと、やりたいこと、やりたくないことを見極め、笑顔が見えるような支援に努めている。又、入居者同士でのやり取りを大切に、良好な関係を築けるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診等の際にはご家族に相談し、出来る限り一緒に受診をしてもらいご本人の状況を把握して頂いている。毎月の請求時には担当職員よりご家族に手紙にて近況の報告や、必要に応じて電話、メール等を利用して情報を発信している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や友人との手紙の交換など、昔の生活習慣や馴染みの関係が途切れないよう支援している。ご本人からの情報やご本人との会話の中で、馴染みのある物や場所等を引き出せるよう努めている。	入居前から利用している美容室や、日頃行っていたお店での買い物に出かけている。以前の年賀状を借り受け馴染みの関係を把握し、手紙の交換をしたり友人が事業所を訪問出来るよう、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの個性や生活歴、好きな事、嫌いな事を知り、入居者相互により良い関係が保たれるよう声掛けやお手伝いをお願いしたり、余暇時間の過ごし方を工夫している。合同の誕生会等、ユニット間の交流も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの情報、日常生活からご本人の思いや意向を汲み取りスムーズに次の生活へ移行出来るよう情報と支援を行っている。ご本人やご家族の希望を尊重しながら、退所後も気軽にホームを訪れて頂ける環境作りにも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の時間を大切にしながら、入居者の思いや体調等に合わせ生活して頂けるよう職員間で話し合いを行っている。ご本人の思いを大切に、表情や行動などの観察をして、入居者の思いに近づけるような対応を行っている。	本人と話す機会を普段から大切にして、思いや意向の把握に努め、普段の行動・表情などや、本人の言葉などを細かく記録している。とくに大切にしたい事は日誌で下線を引き職員間で共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人の生活歴等を伺い、それを踏まえつつホームでの生活を支援していく環境を作っている。日頃の会話の中から、入居前の生活等を察しそれに近づくようアセスメントやカンファレンスを開催し実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムを把握し、ご本人の好きな事、出来ることの継続が出来るよう全体ミーティングやカンファレンスを活用し、スタッフ間の情報の共有を図っている。必要に応じ、リハビリスタッフ等の協力も得ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で疑問に思ったことなどは全体ミーティングなどで話し合い、ご家族にも相談しながら一緒に解決法を見つけ出している。ご家族にはその状況を報告し、意見や情報交換等を行いケアプランに反映させるようになっている。	日頃から入居者本人の思いを聞き出し、ご家族の意向は面会時や電話で把握に努めている。プランの進行状況は、ケース記録に記載し毎月のミーティングで変更の有無を確認し、現状にあったケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題点などや気づきなどがあつた場合には記録に残し、職員間で話し合いを行っている。ご本人にとってどの様な対応が良いのか、話し合いの結果様子を見る場合は記録を残して経過の観察を行いながら、職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する老健の看護師、医師、リハビリスタッフ、管理栄養士等にも協力を仰ぎながら、その意見を参考に色々な問題の解決を目指す工夫をしている。ご家族との情報交換も大切にし、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表者としての参加、回覧板や行事への招待等を通して交流を行うことで、地域の一員として入居者を支えてもらう努力をしている。地域の役員、消防団、小学校等を通して、地域資源を把握しつつ交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望や要望を踏まえ、受診を行っている。受診後は、ご家族へ受診内容等について報告を行い、ご家族が入居者の状態を常に把握できるように対応している。他科への受診は、必ずかかりつけ医へ報告している。	入居時に、かかりつけ医の継続が提携の医療機関かを確認し本人、家族の意向に応えるようにしている。家族受診の時は記録のコピーを渡し、必要があれば職員が付き添い、日ごろの状態をご家族や医師に伝えられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況や日常生活に変化が見られた場合には職員間で話し合いを持ち、担当の看護師に相談し助言や必要に応じたアドバイスをもらい対応している。また、病院受診を行った際には、必ず担当の看護師にその詳細を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大規模時には安心して治療を受けられるよう、ご家族、かかりつけ医、医療機関の関係者と密に情報交換を行い、ご本人、ご家族の不安を軽減するように努めている。また、既往歴や内服薬等が直ぐにわかるように、入居者それぞれに「連携シート」を作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を確認しながら、かかりつけ医、担当の看護師と連携し、ご家族やご本人、職員で話し合いを持ちながら対応している。また、話し合いの内容やご家族等の意向はケアプランに反映し、職員全員が周知し生活支援を行えるようにしている。	入居時に急変時とターミナル期の対応について説明を行い同意を得ている。昨年夏、ご家族の希望により、看取りを行った。付き添うご家族への支援も考え、職員でプランを話し合い、最後まで居室で生活してもらい、職員全員で見送ることが出来た。	看取りを行う中で個別記録の中に本人家族と相談し、意向確認できていることがわかるが、それを書面に残し、家族のサインをもらうなどの工夫を期待します。看取りのあと、職員の心理面への対応も期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム独自で、定期的に避難訓練や急変時の訓練を行っている。他に年2回隣接する介護老人保健施設と合同で防災訓練を大規模に実施している。その際、心肺蘇生法や消火器等の取扱いについても消防署職員より学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練や急変時訓練を行い、非常時に適切に行動できるように取組みを行っている。防災訓練時には、地域の人達や入居者も参加し、職員以外にも適切な支援や避難ができるよう努めている。	事業所の防災体制や非常時対応の理解を待たために、本体施設との合同防災訓練に地域の方に参加してもらっている。地域の方は、避難時の利用者の見守り等、協力してくれている。事業所単体での救急対応訓練も隔日で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格を把握し、会話の際も口調や態度、雰囲気気に気をつけ、個人の誇りやプライバシーを損ねないよう目線を合わせ優しく分かり易く会話する事に努めている。いつでも感情に寄り添い、受容出来る態度に心掛けている。	プライバシーとは何かという研修会を開催して個人を尊重する意識を確認している。食事をとりたくないと言った利用者をソファへお誘いし、あらためて食事に誘い一緒に食事するなど、本人の意向を尊重した対応が自然にできていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者毎に、分かり易い声掛けと職員間で統一したケアを心掛けている。好きな飲み物を選んで頂いたり、買い物も好きな物を購入出来るよう、複数の選択肢を職員側から提案し、少しでも自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の1日の流れはあるが起床・食事・入浴等は時間を気にせず、本人のペースや状態に合わせて生活できるように支援している。余暇活動や行事への参加も自己決定して頂き、その人らしく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等はご本人に何を着るか決めて頂き、自己決定が難しい入居者には、好みの色やデザインを選んでもらうように、色々な提案をしながら支援している。希望に添って理・美容室への送迎を行いカットや毛染めをして頂くように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で野菜を収穫したり、食材の買出しや食事作り、片付けまでを一緒に行い、会話を楽しんだり食事を美味しく頂ける様に努めている。誕生日には希望を聞きながら献立を作成し、ケーキも作り歌も唄ってお祝いしている。	食事の際に自分のご飯を調査員に分けてくれるなど、一緒に食べる人を気遣う姿勢が伺われた。野菜は敷地内で栽培、他の食材はほぼ毎日、入居者と買い物に出かけて購入する。対面式シンクで入居者と職員が話をしながら調理や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に合わせて管理栄養士に相談して、お粥・軟飯・刻み・栄養補助食等を使用し栄養のバランスを考えたり、又水分確保のため野菜・ホカセリを提供したりと対応している。健康チェック表に記録を残し職員間で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせて声掛けをしたり介助を行い支援している。朝夕の歯磨き時には液体歯磨きを使用し、必ず義歯は週に2回ポリデント洗浄消毒を行い口臭の予防に努め、口腔内の異常の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄の状態を観察し早めに声かけを行い、入居者にあつた形で安心して排泄を行えるように支援している。状態の変化に注意し、その都度カンファレンスを行いオムツやパットの種類、サイズ、使用の有無について話し合っている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握しており、その日の体調や状況を見て、トイレにお誘いしている。パット類の種類や使用方法をミーティングで検討し、その人に一番合っているものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて確認を行っている。出来るだけ薬に頼らないよう運動や体操、散歩も行っている。水分や乳製品、食物繊維を多く含むメニューも取り入れ、下剤も内服の仕方、使用する時間を考慮してチェック表を用いて細かく調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入居者のその日の希望を聞き、健康状態を確認し入浴されている。入浴チェック表を活用し、タイミングや声かけに工夫をし入浴出来るようにし、その人のペースで安心してゆっくりと入浴できるように支援している。	入浴時間を固定せず、入居者の希望で入っただけにしている。入浴を好まない入居者には、ご家族の協力を得て、ご家族と一緒に脱衣室へ行き、衣類を脱ぐ不安感を減らして、安心して入浴していただく事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促す事で生活リズムを整えるように努め、個人の体調や生活習慣、表情に気を配りながら、日課を構成している。個人の体力にも配慮し、必要に応じ休息やソファ等で横になる時間も取り入れ、夜間の睡眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が、個別の内服薬を適切に把握できるよう、個人ファイルを作成し管理している。新しい処方や応急的な処方があった場合には、記録や申し送りを通して、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個人の特徴に合わせお手伝い等は、お願ひし、職員と一緒にしている。余暇時間には、縫い物や習字、歌等それぞれの趣味や嗜好にそつて支援を行い、これまで継続してきた事が途切れないように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の心身の状況を見ながら、散歩やドライブに誘い外出の機会を多く作る工夫をしている。ご家族への協力も仰ぎながら、自宅等への外出も積極的に行っている。季節によっては地域の協力を得ながら、運動会、夏祭り、初詣といった定期的な催し物に参加する機会も利用している。	事前の計画が無くても、入居者の希望に応じて外出したり、天候や入居者の状況を見て外出に誘い、外へ出る機会を多く持っている。自宅への外出や、親族の結婚式への出席など、ご家族と事前に打ち合わせ(歩ける距離や段差など)をして外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人から預かっているお金は、ホームで小遣いとして保管させて頂いている。買い物や外出、散髪等の際にはそのお金を持っていき、品物購入時にその都度手渡し、各個人で自由に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者のご家族へ毎月職員から生活の状況を手紙に書き、また、暑中見舞いや年賀状等、自分の名前や一言でいいので書いて頂けるよう支援している。電話はいつでも掛けられるように、また掛かってきた電話は必ずご本人へ取り次ぐ。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーや食堂などは入居者が親しみやすいよう、家庭に近い家具や絵画、季節感に合わせた飾り付けをしている。居台所はオープンキッチンとなっており、料理の匂いや会話をしながら調理の音や食事を準備する雰囲気、他の入居者にも伝わりやすいよう工夫している。	リビングには大きな窓から日差しが差し込んで、広い空間が明るく暖かい雰囲気になっている。別の場所では、壁際にコタツを置き、落ち着ける空間を作り、利用者が過ごしたい場所を選んでくつろげるように工夫されている。独立した共用空間部分が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやロビーには、テレビやソファを設置したコタツルームがあり、入居者同士でくつろげるスペースや一人で過ごす事のできるスペースがある。ベランダにベンチや椅子等をおいて、季節折々の花や風景を楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、居室にはかつて自分が使っていた家具や装飾品を持参して頂き配置し、なじみのある空間となるように配慮している。居室がわかり易いように、ドア前に飾り付けをしたり、希望によって名前を大きく表示している。	ご自宅から今まで使っていた家具や仏壇を持ち込んで配置したり、若い頃の写真を持ってきてもらい、最近の写真と共に壁に飾り、その人らしい空間を作り出している。日中はポータブルトイレをはずし居心地のよい部屋になるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体能力に応じて、シルバーカーを使用して頂いたり、車椅子を用いる等の移動の安全確保を行っている。また、廊下等や浴室には手すりを設置し、歩行能力や身体能力に応じて設備を使用できるように配慮している。		